

「しらせ」からのプレゼント 南極の氷を紹介



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は8月6日（金）、静岡科学館くるくる（静岡市）において海上自衛隊の南極地域観測協力支援活動をPRした。

これは、企業や研究機関などが取り組む活動を実験や体験を通して子供たちに紹介するもの。今回は「見て、聴いて、触れる」をテーマに、海上自衛隊が運用する砕氷艦「しらせ」が持ち帰った南極の氷を展示。「南極クイズ」「南極の水体験」「紙ヒコキを飛ばそう」の3つの体験コーナーを設け、子供連れの家族など123人が参加した。

「南極クイズ」では、自衛官が南極地域観測と海上自衛隊の関わり、南極の氷と普通の氷の違いなどをクイズ形式で説明した。



り固まってできた氷の塊に子供たちが触れ、1万年以上前の空気が閉じ込められた気泡がプチプチと弾ける音を通して遠い南極の世界に思いを馳せていた。

最後のコーナーでは、ブルーインパルスの模様が印刷された紙飛行機を、自衛官の手解きを受けながら子供たちが自ら作製。完成した自慢の機体を「せーの」の合図で一斉に飛ばし、宙に舞う姿を追いかけた。

参加した子供や保護者は「南極の水はプチプチ音がして、冷たくて気持ちよかった」「子供たちにもわかりやすく、親子で楽しむことができたと感想を話していた。

静岡地本は、今後もこのような場を活用し、グローバルに活躍する自衛官の姿を発信していく。

本部長が協力団体へ防衛講話を実施



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は8月25日（水）、静岡県護国神社直会殿（静岡市）で行われた「静岡県防衛協会中・西部支部理事会」において、本部長による防衛講話を行った。

この講話は、同支部から依頼を受け実施したもので、役員等約15人が参加した。今回は「わが国を取り巻く安全保障環境と自衛隊の活動」と題して、わが国を取り巻く安全保障環境、わが国の安全保障・防衛政策、防衛体制、自衛隊の行う災害派遣について説明を行った。

安全保障環境については、まず防衛省作成の動画を見せられ、その後、杉谷本部長が日本周辺における他国の活動について、どのような行動をとっているかを資料や写真を使って説明した。

また、自衛隊の行う災害派遣については、基本的な仕組みや新型コロナウイルス感染症に対する活動に加え、熱海市における大雨に係る災害派遣についても説明し、同じ静岡県内での活動について、参加者は熱心に耳を傾けていた。

講話終了後、中・西部支部長の加藤年功氏から「コロナ禍で自宅に籠りがちになり、情報がなかなか入ってこない。こういった機会に自衛隊の活動を知ることができるのは重要で、大変ありがたいこと。今後も協力していきたい」と感謝の言葉が述べられた。

静岡地本は、今後も協力団体等と連携し、自衛隊に対する理解促進や親近感の向上を目指し、防衛基盤の拡充に繋がる活動を実施していく。